

第 11 回 群杭挙動の実証的研究委員会議事録

日 時：2011 年 6 月 15 日 15:00～17:00

場 所：東京大学 工学部一号館 2 階セミナー室 B

出席者：東畑委員長，寺倉幹事，金田委員，川邊委員，木村委員，斉藤委員，佐藤委員，関委員，高橋委員，千明委員，角田委員，中澤委員，沼田委員，吉川委員，吉富委員，山田委員，石原委員，後藤幹事（記録），青山（発表予定者，東京大学土質研）

欠席者：伊藤委員，平出委員，松木委員，松島委員，小林（恒一）委員，田地委員，本間委員，松本委員，小林（俊一）委員

配付資料：

11-1 前回議事録

11-2 木杭の実験結果（沼田委員）

11-3 地盤工学会関東支部研究委員会グループ幹事会第 1 回議事メモ（寺倉幹事）

11-4 浦安市における液状化対策技術検討調査（案）（寺倉幹事）

議事内容：

1. 前回の議事録の確認

第 10 回の委員会議事録の確認がおこなわれ，修正無く承認された。

2. 委員からの話題提供

沼田委員から「木杭の実験結果」についてパワーポイントを用いて説明があった。

現在もデータを分析中であり，木杭の材料である木材の変形係数の測定が実験時の杭の軸力測定結果に大きな影響を与えているとのことであった。

3. 群杭の実験結果の報告

青山（東京大学修士学生）より群杭の実験状況についての報告をおこなった。今回の報告は CASE-4 および CASE-5 についてであり，杭長は 1.3m，杭間は 5D および 2.5D である。報告内容はタクトイルセンサーによる圧力分布と色砂による地盤変形観察結果についておこなわれた。杭長の長い杭を用いて土槽底板に設置したタクトイルセンサーと杭との距離を狭めることやタクトイルセンサーのデータの初期値からの増分を求められるようにしたことにより，杭貫入に伴う地盤の圧力分布の変化を明確に捉えられるようになった。また，色砂を多層に設置することにより，杭貫入に伴う地盤の変形や杭下端に形成される圧力球根の形などが観察できるようになった。また，タクトイルセンサーのデータで杭貫入時に周辺に初期よりも圧力が減少する領域が観察されており，それについては，せん断に伴うダイレイタンスの反映である可能性もあるが，土槽底板の変形などの影響を受けた可能性もあるので更に検討が必要であるとなった。

4. 研究委員会グループの報告

寺倉幹事より資料 11-3 を用いて委員会グループの報告があった。主な内容は以下の通りである。

- Geo-Kanto2011 が 11 月 10, 11 日に山梨県甲府市で開催される。委員会としてのディスカッションセッションの持ち方が検討されている。
- 浦安市から液状化対策に関する検討委員会の依頼が土質工学会にあったが、これについて特別委員会の設置などを委員会グループで検討することが必要かの議論があったが、運営委員会から特別委員会設置の連絡が来た。内容については東畑委員長が詳しい。

5. 浦安市の液状化特別委員会の説明

東畑委員長より上記の浦安市の特別委員会の経緯や内容について説明があった。地盤工学会だけでなく土木学会、建築学会の 3 学会に浦安市から依頼が来てそれぞれ分担が決まっている。地盤工学会の分担は浦安地区の地盤特性の把握であり、最終的には液状化マップの作り直しも含まれる。委員は公募でおこなうがスケジュールは極めてタイトである。委員会としては浦安市に報告の後も 1 年程度継続して研究的に取り組む予定。

6. その他

- 次回委員会は 2011 年 9 月 16 日（水）15 時より東京大学工学部 1 号館 4 階セミナー室 A で行う。
- 次回委員会終了後に暑気払いをおこなう。出欠は後日メールにより問い合わせがいくのでご返答をよろしくお願いします。
- 議事予定は①群杭試験の分析結果報告、②話題提供、③その他。
- 話題提供を千明委員にお願いしていますが、その他にも話題提供していただける委員は後藤までご連絡下さい。